

若桜鉄道観光列車「昭和」「八頭号」運行開始以降の経済効果

2018年3月に運行開始した「昭和」、2019年3月に運行開始した「八頭号」これら2つの若桜鉄道観光列車による2018年3月～2019年12月末までの期間中の経済効果は、1億3,174万円と試算されました。

期間中に観光等による直接効果8,574万円に加え、県内各産業や、個人消費による波及効果として4,600万円が誘発されたと見込まれます。

2018年3月～2019年12月末の期間中の経済効果の内訳では、交通・宿泊を含む観光事業・飲食業で7,063万円を占めますが、その他のサービス業では、施設・金融・情報通信などを中心に4,198万円、飲食料品製造を中心に工業で1,357万円、農林水産業で556万円となっています。

【経済効果について】

観光列車「昭和」「八頭号」の運行により、地域内に観光客など顧客（消費者）による、新たな需要が生じました。その需要を満たすために、消費者に対して観光業・飲食業などによる生産活動が行われたこととなります。この生産増を**直接効果**と呼びます。また、それによって食事・お土産の原料の生産など、様々な産業で地域内の生産が誘発されます。この各産業で誘発された経済効果を第一次波及効果と呼びます。一次波及効果により生産が増えると、その事業所で働く人の雇用や所得が増えます。その増えた所得での消費による生産増を第二次波及効果と呼びます。それらを合わせて**波及効果**と呼びます。この直接効果と波及効果の合計を**経済効果**と呼びます。